

生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会資料

2010年9月10,11日開催

偶然生まれてくる権利

林 千章 城西国際大学人文科学研究科博士（後期）課程・SOSHIREN 所属

要旨 生まれてくる子は親を選ぶことはできない。生誕自体、選んだことではない。子が受け取らされる誕生の「根源的な受動性」に基づく白紙性が、人間の元基にはある。成熟とは、偶然に与えられた生を引き受け、生まれてきたことを肯定することでもあろう。子を生むのは責任を伴う選択であるが、いざ子どもが生まれれば、ただただ、よくぞ自分たちのもとに生まれてきてくれたと白紙性に立ち戻る契機が親の側にもあった。生殖補助技術を、この「偶然生まれる権利」への介入という視点から考察する。